資料５

前回の子どもにやさしいまちづくり推進会議におけるご意見

※表中「施策〇〇」は資料４「計画の施策体系」の施策の番号を表します。

	ご意見	考え方
1	・子ども条例の認知度を広げていくとよい。 ・教育委員会、教員を巻き込んで子どもたちに伝えていくべきだ。	施策 12「子どもの権利の意識啓発」に位置づけ、検討していく。
2	・ニート・引きこもりの対応が必要。	施策 18「ニート・ひきこもりへの対応」に位置づけ、自立支援サポートステーションを開設するなど対応する。
3	・保育士不足はどのように解消するのか。	施策 11「保育・幼児教育の質の向上」に位置づけ、展開を図る。具体的には、潜在保育士の発掘など。
4	・病児保育の認知度が低い。 ・市の主導で充実を図るべき。	施策 9「多様な保育ニーズへの対応」に位置づけ、展開を図る。
5	・トリプルＰやコモンセンスペアレンティングなどの手法を取り入れ、子育て力の向上を目指してはどうか。	既に実施している「ノーバディズパーフェクト講座」を継続すると同時に、更に子育て力の向上を目指して、施策 21「親育ちの支援」に位置づけ、検討していく。
6	・障がいのある子どもを抱える親の負担軽減が必要。デイサービスや一時預かりのような施策。	施策 3「社会的支援を要する子ども・家庭への対応」に位置づけ、検討していく。
7	・保育や放課後児童クラブの早朝、深夜、休日の充実が必要。	保育については、施策 9「多様な保育ニーズへの対応」、放課後児童クラブについては、施策 15「青少年の社会参加の促進と主体性の育成」に位置づけ、検討していく。
8	・科学やものづくりに関する教育を充実し、ジュニアクラブを活性化するとよい。	科学やものづくりに関する教育は、教育行政計画において取り組んでいる。ジュニアクラブは、施策 15「青少年の社会参加の促進と主体性の育成」に位置づけ、検討していく。
9	・虐待においては、家庭に入っていくことを拒否されてしまうケースもある。	心情的に悩みに寄り添う学校の姿勢と悩みを少しでも緩和するためのサービスや具体例を提示する市との両者で協力していきたいと考えている。保護者の方から専門機関に連絡をとることに抵抗がある場合は、「悩んでいるということを子ども家庭課の育児支援専門員に伝えて連絡を入れてもらってよいか。」と働きかけることもある。継続的に子どもを見守り、保護者への声かけをしていくことで、抑止力にもなると考えている。
10	・梅ヶ丘学園の子どもたちの高校卒業後の大学・専門学校の奨学金制度をつくってほしい。	実際は、進学の実績はほとんどないが、民間の財団や基金で対応策あり。

	ご意見	考え方
11	・ファミリーサポートやショートステイは周知されておらず、利用料が高い。	ファミリーサポートについては、「とよた子育て応援ハンドブック」、豊田市のホームページ、チラシを子育て支援施設に設置するなどにより周知を図っている。利用料金については、県内中核市の岡崎市、豊橋市とおおむね同等である。 ショートステイについては、とよた子育て応援ハンドブックに掲載している。現在、市ホームページへの掲載を準備している。利用料金については、県内中核市の岡崎市、豊橋市とほぼ同一である。
12	・授乳中にもスマホを手放せない母親がいる。	親育ち力の向上に向け、施策 21「親育ちの支援」に位置づけ、検討していく。
13	・まずは結婚を考えた取組が必要ではないか。その後妊娠期、乳児期のケアにつながるのでは。少子化の防止となるのでは。 ・少子化の解決は、青年が結婚して家庭を持つことだと思う。	結婚したくてもできない青少年に対しては、施策 16「青少年の活動の場づくり」に位置づけ、出会いを創出する事業を実施する。
14	・未婚化・晩婚化の対策	直接的には、施策 16「青少年の活動の場づくり」に位置づけ、出会いを創出する事業を実施する。ただし、未婚化・晩婚化に対しては計画全体として取り組んでいくこととなる。
15	・子ども会は、自治区がうまく取りまとめてくれている自治区、そうでない自治区との温度差がある。子ども会の活性化は、その地域がどれだけ対応していくかで変わると思う。	施策 15「青少年の社会参加の促進と主体性の育成」に位置づけ、検討していく。
16	・ジュニアクラブはそれぞれの中学校であるないがあるため、子ども会とは分けて考えて欲しい。	事業としては、それぞれ別に検討し、取り組んでいくが、施策体系としては、施策 15「青少年の社会参加の促進と主体性の育成」に位置づけ、子ども会の活性化とともに検討していく。
17	・不妊治療は精神的、経済的に負担が大きいので、支援が必要。	施策 4 の「相談・情報提供等の充実」「経済的負担の軽減」に位置づけ、引き続き支援する。
18	・０～２歳児は親子の絆が大切なので、支援センターや地域文化センターなどの施設で、いろいろな人と話したり、子育てがしやすくなるよう努めてほしい。	支援センターや、子どもつどいの広場などの施設は、施策 22「子育ての仲間づくりや情報共有の場の提供」に位置づけ、引き続き運営する。
19	・私立幼稚園授業料の負担が大きい。	私立幼稚園授業料に対しては、こども園保育料と同等となるよう、就園奨励費補助により助成している。施策 5「経済的負担の軽減」に位置づけ、引き続き支援していく。